

「遺愛」が 45 回も出てくる小説があります!!

10月13日に五島軒で、小説家・今野敏氏の講演会がありました。今野氏は函館ラサール高校出身で、上智大学在学中に『怪物が街にやってくる』で問題小説新人賞を受賞。『隠蔽捜査』シリーズで吉川英治文学新人賞、山本周五郎賞、日本推理作家協会賞を受賞し、一流作家の仲間入り。このシリーズはテレビドラマ化もされています。『S T警視庁科学特捜班』シリーズ、『東京湾臨海署安積班』シリーズ等も人気です。また、大学時代に始め、40年以上も続けている空手の経験をもとに『武士猿』、『孤拳伝』、『虎の道 龍の門』、『闘神』などを書いています。

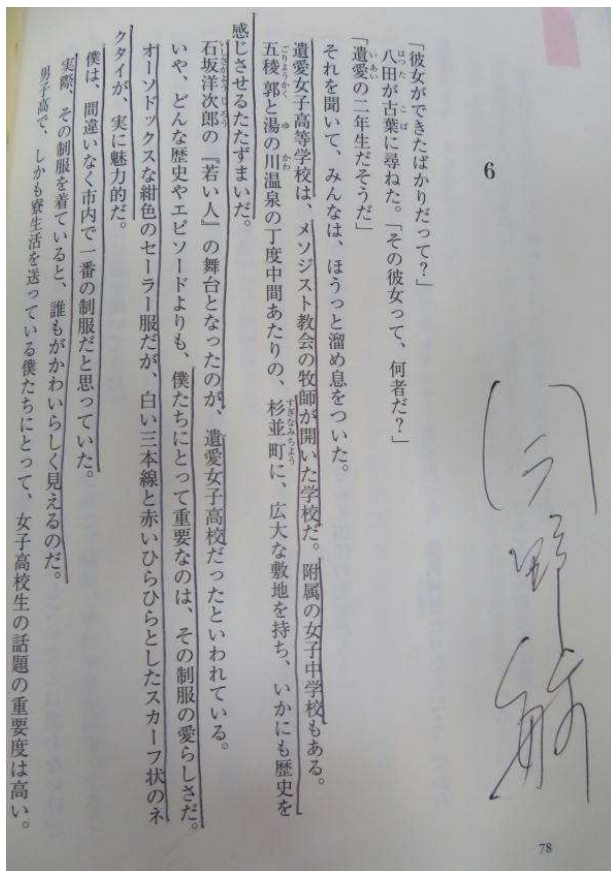
私は以前から今野氏の作品は大好きで、文庫本はほとんど手に入れて読んでいました。その今野氏が昨年『寮生』という小説を出版しました。すぐに購入して読んだのですが、驚いたことに「遺愛」という言葉が45回も出てくるではありませんか。内容は函館の私立男子校の寮にかかわるミステリーで、被害者のガールフレンドが遺愛生という設定で、著者の遺愛生に対するイメージがよく出ている小説でした。今年、文庫本でも発売されました。ぜひ一度お話ができればと思っていたところ、今回の講演会があり、出席してきました。

講演で心に残った言葉は、「中学3年生から高校3年生までの間は、アポロケットに入っていて、何をやっていいかわからない時代であった。これがふつう

であろう。そんな時には幼稚園や小学生の時に何をやりたかったか思い出すといい。自分の心の奥底にあるものが見いだせるかもしれない。」「人生は常に選択の連続でできている。朝ごはんは何を食べようかに始まって、朝から夜まで選択の連続である。その選択の総和が夢の実現だったり、やりたいことの達成につながってくる。その時に何を選ぶかは意志で決まる。意志とは方向性のことで、強く思うとそちらの方に向いていくのが人生である。」でした。遺愛の生徒たちにも伝えたい言葉だと思いましたが、講演終了

後、挨拶に行きましたら、ぜひ、遺愛で講演したいというお話でした。ぜひ機会を作りたいと思っています。

2017年10月24日(火)



今野敏氏のサインと『寮生』の中の「遺愛」



『寮生』表紙



今野敏氏